

最新医療経営



特集

人生100年時代を先取り!!

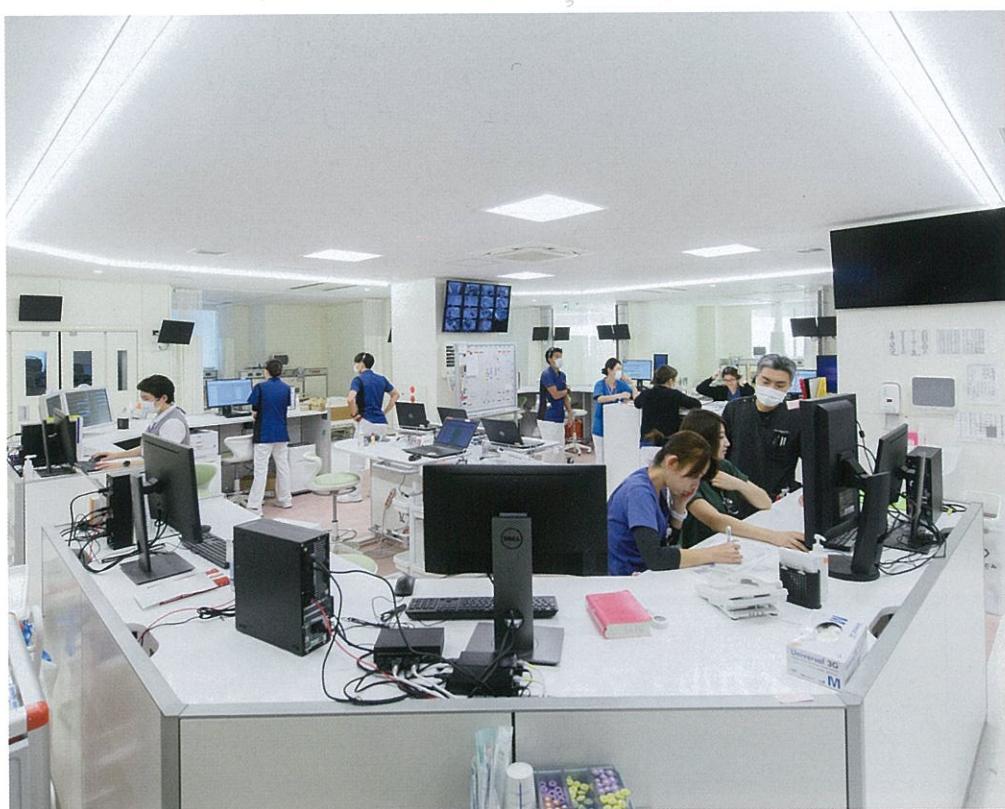
患者に選ばれる これからの 病院の条件

地域・
機能別

病院トップの経営者魂
田中繁道 医療法人溪仁会理事長
「地域医療のあるべき姿を追求」

わがまちの医療
第4回 静岡県浜松市
「地域一体」の感染症対策

医療×企業リーダー対談
柴原孝彦 東京歯科大学
中谷泰志 千葉病院副院長
お口の健診株式会社代表取締役社長
デジタルワン株式会社



病院新時代
埼玉石心会病院
社会医療法人財団石心会

「希少がん」として認知度は低いが日本人の罹患・死亡者数は増えている

柴原 日本における口腔がんの罹患率は、胃がんや肺がんなど代表的ながん28種類のうち12番目ですが、5年生存率は20番目と、死亡率の高いがんです。「がん統計2016」によると、罹患数2万1700人に対して死者数は7600人で、死亡率は35%にも上ります。口の中に何か出っ張りがあると、気にはしても放置してしまい、病院に来た時にはがんが進行した状態で、治療が間に合わないことが多いからです。罹患者数は胃がんの10分の1ほどですが、1975年から3倍以上と増加をたどっています。

食べ物や生活習慣、ウイルスとの関係はもちろん、慢性的な外傷性の刺激も一因として考えられます。食べることは一つの刺激ですし、声を発する際には舌を歯に当てるになります。が、歯が傾いていると同じ場所が刺激されます。虫歯が治療できていない、入れ歯が合っていないことも理由と言われています。

国が推奨しているがん検診は「罹患者数が多いこと」「早期発見、早期治療の手段、効果があること」といった基準がありますが、口腔がんは罹患者数が少なく希少がんとされ、認知度が低く、検診も定着していません。

Takahiko Shibahara

歯科医の多くは開業医ですから、日々の診療や経営で手いっぱい、口腔がんまで手が回らないという現状があります。だからこそ、ナビシステムのような仕組みを使い、専門医と連携しながら、口腔がんの死亡者数と死亡率の低下につなげたいと考えています。我々専門医も、中谷社長とともに、活動を加速させる次第です。

MEDICAL

口腔がん検診を日常生活の中で「当たり前」にしていくのが目的

中谷 撲滅委員会ではいくつかポリシーを掲げています。まずは、口腔がんの早期発見で、これについては自治体が中心となり歯科医師会と一緒に実施するイベントのような集団検診があります。ただし、検診に来るのは自ら申し込んだ人だけ。ステージ0～2の早期がんで発見、あるいは歯列不正などから来る異形成段階（前がん状態）のレベルで発見するためには、定期

口腔粘膜チェックの浸透

Taishi Nakatani

シンポジウムを通じた歯科医、歯科衛生士への理解、ナビシステムの普及による早期発見・診断のプロセス作りなど、すべきことはまだたくさんありますが、専門医、歯科医の皆さんと協力しながら推進していくたいと思います。地域大学と開業医の連携に関しては、12月からテストランを始めます。

COMPANY

中谷 そうしたことでもう一つ死亡率はアメリカの19・1%に比べて非常に高くなっています。

まずは、この水準まで引き下げたいというのが、私たちの考えです。2014年秋から、柴原

先生と一緒に、「口腔がん撲滅委員会」の活動を始め、今年2月には「一般社団法人口腔がん

撲滅委員会」として設立登記をしました。口腔

がん検診・口腔健診を広く周知するとともに、

5～8月には計8回、「日本縦断・地域の口腔

がんを考えるシンポジウム」の第一弾として北日本編を実施しました。歯科医師や歯科衛生士など定員530人に対して、657人にご参加

いただく盛況ぶりでした。現在は西日本編11月

からの第2弾西日本編（11県12回）を開始し、

同時に、18年5月からの第3弾中日本編（9県9回）の準備も開始しています。

医療 × 企業
リーダー対談

口腔がんの罹患・死亡者数を皆の力で減らす

中谷泰志

デジタルワン株式会社
代表取締役社長

柴原孝彦

東京歯科大学口腔顎面外科学講座
主任教授

胃がんや肺がんに比べると罹患者数は少ないものの、その数は増え続け、高い死亡率の口腔がん。進行がんになると舌や頸を切除することからQOLにも影響があり、その苦しみから自殺者も少なくない。そんな、隠れたがんを撲滅するため、ITの活用やシンポジウムの開催で医療人や一般人への啓蒙を図ったりしているのが、口腔がん撲滅委員会だ。その活動内容や今までの軌跡について、キーパーソンのお二人に語ってもらった。

なかに・たいし●1984年4、富士ゼロックス株式会入社、慶應大学大学院にて学ぶ(在職中派遣にて)。2000年4月、フリーのコンサルタントとしてベンチャー企業の経営支援。01年1月、壁紙ドットコム株式会創業、代表取締役社長就任。02年3月、GMOインターネット株式会社(東証一部)取締役就任(営業統括担当)。04年12月、デジタルワン株式会社創業、代表取締役社長就任。05年4月、金沢工業大学大学院(東京都港区虎ノ門)知的創造学科客員助教授就任。15年12月、お口の健診株式会社設立、代表取締役社長就任。17年2月、一般社団法人口腔がん撲滅委員会設立、専務理事就任。



Taishi Nakatani

す。1992年から口腔検診に熱心に取り組んできた柴原先生と出会ったのです。

企業と医療が組むことで啓発活動がスムーズに進む

中谷 私はもともと、一般企業や歯科医のコンサルタント業を手掛けていて、当時は口腔がんについてまったく知りませんでした。それがおそれい病気だと知り、何とか啓発活動や早期発見・診断、検診の仕組みをつくりたいと考えていたところ、1992年から口腔検診に熱心に取り組んできた柴原先生と出会ったのです。

キヤッチコピーを掲げていただきましたが、まさにそのとおりで、地域の歯科医院と基幹病院の歯科口腔外科が連携し、米国並みの早期発見・早期治療の仕組みが実現できれば、日本においても年間で約5000人規模の口腔がん患者の命を救えるとされ、これに臨まないわけにはいきません。

柴原 最初は、コンサルタントにひどい目に遭わされた歯科医の話も聞いていたのでちょっとと疑心暗鬼だったのですが(笑)、何度も話し合い、シンポジウムも手弁当で一緒に回るなど、歯科医以上にこの運動に取り組む姿勢に心を打たれました。患者さんを救うには、いろいろなアプローチが必要で、それには中谷社長のようなITに精通したパートナーはとても心強いです。

中谷 私が歯科医のコンサルを始めたのは、インチキなサイト事業者やコンサルが多いというのも理由のひとつです。医科は事務局長がいるなど事務機能がありますが、零細の歯科の開業医だとそうはいきません。そこで、コロッとしたまされてしまうのです。そんなケースを減らしたいですし、撲滅委員会の活動を通じて、歯科医の地位を高めるというのも目的です。

柴原 歯科医の口腔がんへの関心の低さを述べましたが、一般社会になるとさらにひどい。年

的に通っている地域の歯科医院がカギになります。通院時に粘膜などをチェックすれば早期発見につながり、舌や頸のほねを切除せずに治療できる可能性が出てきます。つまり歯科医で検診が習慣化してもらうことが重要で、シンポジウムの目的はここにあります。

もちろん、現場でチェックしても、口腔がんの疑いがあるかどうか判断できないケースもあると思います。そこで推進しているのが、早期判断ができる仕組みとして柴原先生が開発した遠隔画像診断システム「口腔がん検診ナビシステム」です。

柴原 12年11月から運用を始めており、現在800人弱の会員登録があります。基本的に無料で使える医院で撮影した画像をウェブベースで添付して送ると、私を中心とした口腔の専門医が5時間以内にチェックし、「がんの疑いがあるので患者さんに基幹病院を紹介してください」「1週間経過観察を行い、もう一度画

像を送ってください」など、アドバイスを行います。これまでに1028件の相談があり、21件の口腔がんを見つけました。

中谷 現在は東京歯科大学を軸に全国展開していますが、今後は地域の基幹病院・歯科大学などと開業医のネットワークに発展させていきます。熊本県であれば、熊本大学と近隣の歯科医院が連携し、柴原先生もコメントできるという位置づけです。開業医は普段から口腔がんを診ているわけではなく、判断に迷うこともあります。専門医であれば症例がたくさんあり実績も豊富。両者がつながることで、早期発見から診断の流れが確立できるので、この仕組みづくりを広げるのも私の役目だと考えています。

歯科医が口腔がんのチェックを行い、歯列が良くないとわかれら診療し収益にもなります。このように、まずは受け皿を整備したうえで、広く一般に向けた認知活動を行う。開業医の意識を上げて、ナビシステムを使えるようになつ

た段階でアクセルを踏めば、適正な検診の流れが構築できるのではと考えています。

柴原 現状では口腔内の粘膜を診ても保険点数がつきません。開業医でのチェックが定着しない理由の一つでもあるでしょう。11年に歯科口腔保健の推進に関する法律が成立し、そこでは「歯科医は一口腔単位を守り、口腔がんの知識を啓発する」と明文化されていますが、診療報酬の後押しはありません。ぜひ報酬に反映されるように運動していきたいと考えています。た

柴原 北日本のシンポジウムの参加者からは「保険点数が付こうが付かないが、口腔がんを歯医者が見つけないと誰が見つけるんだ、と自分で言い聞かせました」など、医療人としての矜持を感じるコメントが届いています。柴原先生には「歯科医院で救える命がある!」という

しばはら・たかひこ●1979年3月、東京歯科大学卒業。同年4月、東京歯科大学口腔外科学第一講座入局特別研究生。84年6月、東京歯科大学大学院歯学研究科(口腔外科学専攻)修了。84年11月、歯学博士の学位受領(東京歯科大学口腔外科学)。東京歯科大学口腔外科学第一講座助手、同講師、同助教授、同主任教授などを経て、2005年4月、東京歯科大学口腔外科学講座主任教授。10年より東京歯科大学千葉病院副院長を兼務。12年9月、東京歯科大学市川総合病院口腔がんセンター長(13年5月まで)。東京歯科大学学会員、日本口腔外科学会会員、日本口腔科学会会員、日本頭頸部腫瘍学会会員、日本口腔腫瘍学会会員、日本癌学会会員、日本癌治療学会会員、日本感染症学会会員など。



Takahiko Shibahara